

# 2020年度事業報告書

認定NPO法人 しがNPOセンター

## 概要 (P1)

- 1 市民活動・NPO 支援のための情報提供、相談・コンサルティング、マネジメント及び人材育成に関わる事業 (P2)
  - (1) 情報提供
  - (2) 相談・コンサルティング
  - (3) まちづくりサロン
  - (4) インターンシップ受入
  - (5) マネジメント及び人材育成に関わる事業
  - (6) こくみん共済「こども成長応援プロジェクト」への協力
  
- 2 地域コミュニティ支援のための情報提供、相談・コンサルティング、マネジメント・人材育成に関わる事業 (P4)
  - (1) 情報提供
  
- 3 協働推進 (P5)
  - (1) 行政との協働
  - (2) 企業・団体との協働
  
- 4 調査研究事業・政策提案 (P17)
  - (1) コラム発信
  - (2) 協働環境調査
  
- 5 災害ボランティアコーディネーター事業 (P18)
  - (1) 「災害支援市民ネットワークしが」の運営
  - (2) 近畿ろうきん NPO パートナーシップ制度
  - (3) 滋賀県災害ボランティアセンター運営協議会
  - (4) 災害ボランティアコーディネーター基本研修
  - (5) 災害時要配慮者支援ネットワーク会議
  - (6) 官民の被災者支援主体間の連携推進のための中核人材育成研修会
  
- 6 ネットワークの構築 (P22)
  - (1) 近畿ろうきん NPO パートナーシップ制度
  - (2) 中間支援センター意見交換会への参加
  
- 7 会議等の開催 (P23)
  - (1) 総会
  - (2) 理事会

## 概 要

2020年度は、新型コロナウイルス感染症（以下「コロナ」という。）が猛威を振り、社会全体に大きな影響を及ぼした。4月に発出された緊急事態宣言を皮切りに、しがNPOセンターの活動も変更せざるを得ない場面もあったが、オンラインでの会議や講座の開催、相談対応などの新たな可能性を生み出す機会ともなった。

これまで大きな柱として取り組んできたNPO若人エンパワープロジェクトやNPO人育ちプロジェクトといった人材育成に関しては、コロナの影響もあって新たな展開をすることができなかった。

市民活動支援のベーシックな活動である相談事業は重要な位置付けとなっており、設立当初から多岐にわたる内容の相談に応じてきた。これまでは対面での相談対応のみであったが、コロナ対応でオンラインでの有料相談を開始し、相談事業の新たな展開を予感させるものであった。あわせて助成金事務局としての相談もオンライン対応とすることで、団体のさまざまなニーズに対応できた。時間と場所についての自由度が高く、丁寧に対応することが可能なオンラインでの相談は、相談者の納得感も高かった。

草津市の協働のまちづくり推進支援委託業務では、協働推進計画の評価指標の検討、総合交流センターの運営管理検討などを行った。

企業・団体との協働関係では、平和堂財団の環境保全助成金事業「夏原グラント」、生活協同組合コープしがとの「できるコトづくり制度」に加え、大和リース（株）との協働事業である「まちづくりスポット大津」の運営を行った。

「夏原グラント」は、2012年度から助成が始まり、2020年度までで助成を受けたのは延べ432団体、助成金総額は121,771,000円となっており、滋賀県・京都府の環境保全等の市民活動団体の活動を支える役割を果たしている。民間の助成金規模としては滋賀県では突出している。さらなる制度のPRに加えて、この助成金そのものの価値を伝えることが必要となっている。助成金事務局として講座や相談会、個別コンサルティング、訪問レポートを専用サイトに掲載することでの情報公開などにも対応した。コロナの影響での事業変更や休止を余儀なくされた団体への対応・支援、オンラインを活用した講座や相談会の実施、団体の組織運営サポートなどにも積極的に取り組んだ。

「できるコトづくり制度」はコープしがが主宰し、さまざまな「想い」や「願い」を持った個人や団体が新たな一歩を踏み出すための学習の場の提供と、それらを実現させるために必要な資金の助成の二本立てとなっている。2020年度分の審査会がコロナの影響で4月にずれ込み、あわせてプレゼンテーションを実施しない書類審査のみになった。講座はオンライン併用、助成金説明会・相談会もオンライン併用で行うとともに、コロナの影響での事業の休止や変更にかかるサポートをした。団体の訪問レポートを専用サイトに掲載することでの情報公開などにも対応した

「まちづくりスポット大津」は、大和リースが全国で展開している地域交流拠点で、地域課題の解決につながる活動を支援することや多様なセクターとのつながりをつくるなどを運営の基本としている。運営を受託しているハッシュタグ大津京はコロナの影響で年度当初は利用制限を行っていたが、10月からの無人管理の導入で、夜や日曜日の貸館が可能になった。講座やイベントなども工夫をしながら展開した。10月に新法人ができたことで、次年度からは、しがNPOセンターは運営サポートという位置付けになる。

「災害ボランティアコーディネート事業」は、7月の熊本豪雨がコロナの影響で県外からのボランティア受入れが難しいこともあり、特段の対応ができなかった。しがNPOセンターが事務局を担っている「災害支援市民ネットワークしが」の研究会は、近畿ろうきんのNPOパートナーシップ制度を活用して実施した。コロナ対応をテーマにすることで関心が広まり、新たな参加者を得るとともに、追加の研究会を開催した。

# 1 市民活動・NPO 支援のための情報提供、相談・コンサルティング、マネジメント及び人材育成に関わる事業

## (1) 情報提供

ホームページ、フェイスブックなどで、NPO 支援のための情報や NPO コラムを発信した。  
会員に向けては、メールの一斉送信などで情報提供を行った。

## (2) 相談・コンサルティング

### ① 相談業務

相談業務は有料相談件数は少なく委託業務内での相談対応が多いが、それらを通して活動団体の課題が把握でき、それをもとに今後の事業展開に向けての提案をすることができた。コロナ拡大により、活動を中止・変更せざるを得ない団体が多く、丁寧に対応した。助成金事務局として、全団体にコロナ禍での活動状況や予定事業の進捗状況を聞き取ったところ、限られた分野での活動ではあるものの、困難な状況が伝わってきた。その中で、様々な工夫を凝らして活動している団体の様子がうかがえ、力強さを感じつつその取り組みが参考となるケースもあった。

相談手法としては、オンラインでの対応を取り入れた。場所にこだわらずに日時の調整のみで進められることから、効率的な相談対応となった。ただし、相談料をどのように受け取るかが課題である。

#### 有料相談

1 時間当たり 3,000 円（税別、スタッフが出向く場合は交通費別途）

相談件数 2 件

- ・ 自社の社員研修先について
- ・ 法人化について
- ・ 立ち上げから法人設立に向けての組織基盤整備について

#### 委託業務等内での相談対応

相談件数 104 件

- ・ 助成金の応募について
- ・ コロナ禍における活動について

## (3) まちづくりサロン

### 「新書 de 読書会」

2020 年度も毎月第 3 月曜日（祝日の場合は前後で設定）で定例開催した。コロナ拡大防止の観点から、状況に応じてオンライン開催とした。オンライン開催は 2 回であった。今後も多様なテーマや多彩な話題提供者による読書会を展開していきたい。

① 2020 年 4 月 20 日（月）19：00～20：30

課題本：「平成の天皇」論 著者：伊藤智永 出版：講談社現代新書

② 2020 年 5 月 18 日（月）19：00～20：30

課題本：日本の地方政府 著者：曾我謙悟 出版：中公新書

③ 2020 年 6 月 15 日（月）19：00～20：30

課題本：女性のいない民主主義 著者：前田健太郎 出版：岩波新書

話題提供者：平井育恵

- ④2020年7月20日(月) 19:00~20:30  
 課題本：放送の自由～その公共性を問う 著者：川端和治 出版：岩波新書
- ⑤2020年8月17日(月) 19:00~20:30  
 課題本：中年ひきこもり 著者：斎藤環 出版：幻冬舎新書
- ⑥2020年9月14日(月) 19:00~20:30  
 課題本：国家と記録～政府はなぜ公文書を隠すのか？ 著者：瀬端源 出版：集英社新書
- ⑦2020年10月19日(月) 19:00~20:30  
 課題本：教育は何を評価してきたのか 著者：本田由紀 出版：岩波新書
- ⑧2020年11月16日(月) 19:00~20:30  
 課題本：戦争とは何か～国際政治学の挑戦 著者：多胡淳 出版：中公新書
- ⑨2020年12月21日(月) 19:00~20:30  
 課題本：私とは何か～「個人」から「分人」へ～ 著者：平野啓一郎 出版：講談社現代新書  
 話題提供者：西川実佐子
- ⑩2021年1月18日(月) 19:00~20:30  
 課題本：新型コロナ制圧への道 編者：大岩ゆり 出版：朝日新書
- ⑪2021年2月15日(月) 19:00~20:30  
 課題本：美意識の値段 著者：山口桂 出版：集英社新書
- ⑫2021年3月15日(月) 19:00~20:30  
 課題本：「男女格差後進国」の衝撃～無意識のジェンダー・バイアスを克服する  
 著者：治部れんげ 出版：小学館新書

#### (4) インターンシップ受入

NPO法人ドットジェイピーが主催するNPOインターンシップ・プログラムに賛同して、学生1名を受け入れた。助成金の選考会運営、まちづくりスポット大津での講座記録、イベントの受付など、短期間ではあったが、NPOへの理解を深めてもらうことができた。

#### (5) マネジメント及び人材育成に関わる事業

本年度の人材育成講座および団体へのマネジメントなどの支援講座は、後述(2-(2)-③)のまちづくりスポットの取り組みの中で展開した。新しく拠点が提供されたので広報、集客などがやりやすかった反面、参加団体や参加者層が大きく変わった。改めて、NPOをとりまく状況やニーズの把握が必要だと感じた。

#### (6) こくみん共済「こどもの成長応援プロジェクト」への協力

こくみん共済が主催する「こどもの成長応援プロジェクト」では、子どもたちがすこやかに育ち、助け合いの気持ちを次の世代に繋いでいく取り組みの一環として、なわとび・長なわを全国に寄贈している。こくみん共済滋賀推進本部より、なわとび・長なわの寄贈先となる子育て支援団体についての相談があった。しがNPOセンターのネットワークから対象となる団体へ個別に連絡して、なわとび・長なわを手渡した。夏原グラントやできるコトづくり制度の助成金を受けている団体や、紹介してもらった団体など、今まであまり交流がなかった団体もあり、顔の見える関係が築けた。

## 2 地域コミュニティ支援のための情報提供、相談・コンサルティング、マネジメント・人材育成に関わる事業

### (1) 情報提供

地域コミュニティ、特にまちづくり協議会に対する中間支援に必要なメニューをとりまとめ、今後の相談対応時のコンテンツとして使えるように整理した。必要に応じて情報が提供できる体制にある。

### 3 協働推進

#### (1) 行政との協働

##### 草津市協働のまちづくり推進支援業務（受託事業）

草津市が進める「協働のまちづくり」を推進するためにまちづくり協議会および市民公益活動団体の動向を見据え、有識者、自治体、NPO 法人等へのヒアリングや文献等による全国事例調査を行いながら協働事業の展開に関する新制度の設計及び市民公益活動のさらなる環境整備に向け、次の柱により業務を行った。

##### ①協働推進サポート業務

- ・協働のまちづくりの推進のため、政策法務の視点、全国事例など広域的な視点、その他必要な視点で専門的な助言を行った。
- ・「市民参加・協働のまちづくり推進評価委員会」への出席、「協働のまちづくり推進計画」の評価表の作成についてのアドバイスを行った。また、市が実施する協働研修へ出席し助言を行った。
- ・協働コーディネーターとして、以下②③の業務に関して各団体のヒアリングを行ったほか、プレ・ラウンドテーブルのコーディネートを行った。

##### ②市民総合交流センターにおける協働事業展開等に係る設計支援：ラウンドテーブル（お互いさまプロジェクト）の制度設計

- ・地域課題の解決を図るための“対話”による「意見交換の場」、「気づき、学びの場」となるラウンドテーブルの制度設計、新しい協働事業を創出するためのしくみの提案を行った。また、検証のためにプレ・ラウンドテーブルを企画・実施した。
- ・制度設計に関する他市事例収集を行ったほか、市民総合交流センター入居団体、活動団体のヒアリングを行い、提案に反映させた。

##### ③市民総合交流センターの活動団体登録制度の設計

- ・新しくオープンする市民総合交流センターにおける登録団体制度の在り方について、既存制度や登録団体、利用者等を考慮し制度設計を行った。
- ・市民総合交流センター入居団体、市民公益活動団体のヒアリングからニーズの分析を行い、制度実施の手順や効果などのまとめ作業と提案書の作成を行った。

##### ④市民公益活動団体に対する新たな支援制度の検討業務

- ・現在の支援制度（市民公益活動保険加入補助金）の運用見直しを行った。
- ・今までの支援制度の検証と併せて、新たな支援制度として「市民公益活動団体に対する伴走型補助金事業」に関する資料収集（他市事例等）を行った。
- ・新たな支援制度の課題や効果などのまとめ作業を行い、提案書を作成した。

##### ⑤市民総合交流センター5階「協働ひろば」に求められる機能の整理

- ・2018年度にコミュニティ事業団に対して行った提案書「草津市（新）まちづくりセンターのあり方について」をベースに、現状にあった協働推進と中間支援の機能を追加し提案書を修正した。

#### (2) 企業・団体との協働

##### ①平和堂財団 環境保全活動助成事業「夏原グラント」（受託事業）

2011年度の助成金創設から2020年度は10年目という節目の年を迎えた。このタイミングで10年目を意識した事業内容を展開することも念頭にあったが、コロナ拡大の影響もあり、新しいことには取り組み

にくかった。助成金で活動している団体からは「予定していた事業が実施できない」という悩みが多く聞かれた。反面、環境保全活動は戸外で密集・密着せずに行えることから「従来通りの活動ができています」という団体もあり、実施できるかできないかについては大きな違いがあった。実施できない団体については、事業内容・予算変更などについて丁寧に相談に応じた。

例年実施していた贈呈式・交流会・オリエンテーションなどは、コロナ拡大防止のために中止した。そのため、活動が始まる時期に実施していた活動にあたっての注意点や事務手続きなどについて説明する機会がなくなった。これらの連絡を文書で行ったり、市民環境講座のオンライン配信、説明会・相談会のオンライン対応など、今までにない対応については十分な準備期間がなかったため課題も多かった。次年度以降もコロナ拡大の状況については見通しが立たないこともあるので、しっかりと対応できるように準備する必要がある。

訪問による活動レポートの作成とホームページサイトでの情報発信、報告書の作成などについては従来通り実施した。

#### i 助成団体

・一般助成1年目	14 団体	助成金総額	4,460,000 円
・一般助成2年目	10 団体	助成金総額	3,450,000 円
・一般助成3年目	12 団体	助成金総額	3,820,000 円
・ステップアップ助成	2 団体	助成金総額	1,000,000 円
・ファーストステップ助成1年目	12 団体	助成金総額	1,150,000 円
・ファーストステップ助成2年目	10 団体	助成金総額	1,000,000 円
	計 60 団体		14,880,000 円

2020年度助成金対象団体については2019年度中に選考会を実施している。

選考会は一般1年目1次選考のみ非公開の書類選考で2次選考に進む団体を決定、一般1年目2次・一般2年目はプレゼンテーションと選考会、一般3年目は個別ヒアリングを行い取りまとめた結果を選考会で報告、ステップアップ助成1年目は書類審査、2年目は選考委員によるヒアリングで採否を決定した。プレゼンテーションは公開ではなく、関係者のみの実施であった。ファーストステップ助成は1年目・2年目ともに、書類確認の上、採否を決定した。

2020年度の助成金対象団体数と助成額は以下のとおりである。

#### <一般助成1年目>

団体名	事業名	助成金額
滋賀県レイカディア大学同窓会大津支部	大津市内小学校の緑化・美化活動	300,000
横山はらっぱ倶楽部	横山森林公園の活性化	300,000
八島里山づくり委員会	八島ふれあいの森づくり（世代をつなぐ里山の保全管理活動）	400,000
志津南『芝桜プロジェクト』	草津市志津南地区内調整池等の雑草地整備	130,000
桂坂野鳥遊園子ども自然観察会	子ども自然観察会	160,000
上宮津・杉山エコガイドの会	道普請ツアーと東屋づくり	450,000
一般社団法人京都竹カフェ	放置竹林問題対策活動団体の連携と教化によるパワーアップ	300,000
亀岡人と自然のネットワーク	希少種の保全 ヤマトサンショウウオの生息環境保全	350,000

棚田・里山・古代米・鮎プロジェクト	棚田・里山・古代米・鮎プロジェクト	450,000
フィールドソサイエティ	広げよう！森林環境学習活動	420,000
明日の走井を考える会	みんなで創る走井（はしり）の里	300,000
島コウモリ調査グループ	希少コウモリの生態調査―保護と生物多様性維持に向かって	500,000
美土里ファーム・コミュニティファーム 実行委員会	京都・滋賀でのコミュニティファームの設立	250,000
Tread（学生団体）	子供向けの自然学習及び、生物調査	150,000

<一般助成2年目>

団体名	事業名	助成金額
徳山環境保全会	彼岸花の復活による堤防環境保全と地域づくり	300,000
虎御前山古墳と中世城郭保全顕彰会	虎御前山の里山保全・整備活動	250,000
滝区ササユリの里づくり委員会	滝区ササユリの咲きほこる里づくり	350,000
猪子山・地獄越え周辺の山道を良くする会	猪子山・地獄越え山道整備事業	200,000
秀次家臣団屋敷跡竹林を守る会	八幡山城 豊臣秀次家臣団屋敷跡の竹林整備と市民が親しめる環境づくり	300,000
中世木ビジョン委員会	中世木の里山・棚田を守るプロジェクト	350,000
京都桑田村	2020年度桑木クヌギ植え付け事業	400,000
八幡たけくらぶ	放置竹林整備事業	400,000
滋賀のオオサンショウウオを守る会	滋賀県のオオサンショウウオに関する調査・研究	500,000
森の風音	都市公園で育むナチュラル・ガーデンとナチュラル・キンダー ーガーデン	400,000

<一般助成3年目>

団体名	事業名	助成金額
ヨシネットワーク	「ヨシ群落・水郷・琵琶湖」の魅力を発信・案内するしくみ づくり	300,000
自然住宅情報ひろば	久多の山と遊ぶビーバーの会	400,000
重利の山を守る会	里山の保全 地域のコミュニティづくり	250,000
志津南環境美化ボランティアの会	緑の手入れを通じての“高齢者支援対策”と“空き家対策”	400,000
甲賀の環境・里山元気会	里山の整備保全と地域との交流活動（自然豊かな里山で大人 と子供達が一緒に楽しめる音楽会の開催）	350,000
みんなの家EH	遊休農地活用地場産材による甘味防災保存食事業	400,000
山中比叡平里山倶楽部	野鳥の気持ちを知るプラットフォームづくり（環境教育実践 のための野鳥観察施設づくりと野鳥観察会実施）	400,000
伊吹くらしのやくそう倶楽部	耕作放棄棚田の再生と伊吹の薬草復活プロジェクト	300,000
滋賀県苗木ネットワーク	近江の苗木ニューブーム推進事業～全国植樹祭を成功させ よう～	400,000



西の湖ヨシ灯り展実行委員会	西の湖ヨシ灯り展	240,000
こそだてママnet☆	鹿背山おやこの森のkichi	300,000
荒神山ファンクラブ	荒神山ファンクラブプロジェクト	80,000

<ステップアップ助成>

	団体名	事業名	助成金額
1年目	放鳥's	野性傷病鳥獣の救護追跡事業	500,000
2年目	里山保全活動団体 遊林会	Re梵大作戦 ～梵釈寺から始まる里山の再生～	500,000

<ファーストステップ1年目>

団体名	事業名	助成金額
京都南丹おいもの里	2020年度甘藷試験栽培計画事業	100,000
彦根ブナの会	彦根ブナの会 植樹活動	100,000
吉田山の里山を再生する会	吉田山の自然環境を保全し、人々が集い楽しめる里山に再生する事業	100,000
滋賀サイエンスカフェ実行委員会	サイエンスカフェ	100,000
未来生物学研究所（学生団体）	滋賀県の河川・湖沼等の環境保全及び環境問題の解決を目的とした最新科学技術の活用	100,000
西の湖自然楽校	西の湖自然楽校	100,000
せせらぎの郷	大麦ストローを使おう、「脱プラスチック」環境問題を考えるアイテムとして	100,000
フードバンクびわ湖	“食品ロスを地域の資源へ もったいないを「笑顔」と「絆」に”	100,000
林業女子会@京都（花背支部）	花背の里山自然観察会と里地調査からの生物多様性の魅力発信	100,000
生き物ふれあい隊（学生団体）	生き物ふれあい隊活動	50,000
寺子屋共育轍	ブッシュクラフト kids!	100,000
農部（学生団体）	農家お手伝い事業	100,000

<ファーストステップ2年目>

団体名	事業名	助成金額
西の湖あそび隊	西の湖おはなしあそび	100,000
ながみね	地域の環境整備《緑化活動・清掃活動》の推進	100,000
チームむべなるかな	琵琶湖水鳥観察会とむべなるかな里山探索会	100,000
瓜生川桜の花路を楽しむ会	瓜生川桜並木造成事業	100,000
沖島里山保全の会	沖島のやまみち整備事業	100,000
Mom's fun	西の湖であそぼう！	100,000
ゆめむら	農作業をとおして、家族力と地域力で「子育て」を学ぼう！	100,000
能登川地区まちづくり協議会	ふるさと散歩道事業 <魅惑のパワースポット 猪子山に巨石の神々を訪ねる 岩神山のおはなし>	100,000

オランダ堰堤および周辺の環境を守る会	オランダ堰堤および周辺地域の清掃活動、草刈り事業および川ざらい事業	100,000
こにゃん木の駅プロジェクト準備委員会	湖南省産バイオマス燃料製造プロジェクト	100,000

## ii 市民環境講座

環境保全活動を進めていくための専門的な知識や組織運営について学ぶ場として市民環境講座を開催した。選考委員に講師を依頼した。

一般助成1年目とファーストステップ1年目で、助成金を初めて受ける団体は出席を必須とした。コロナ拡大防止のために、会場参加とオンライン参加の併用型で開催した。オンライン配信は通信環境整備や機材の準備、会議アプリケーションの運用などについて一定の知識や技術が必要であり、それなしにはスムーズな運営ができない。特に併用型については、どちらの参加者にも配慮した内容やプログラムの組み立て方が必要である。今後はオンライン配信も増えていくことが考えられるので、必要機材整備や必要情報・技術取得、事前説明や内容の工夫、時間配分など、スムーズな運営ができるように取り組んでいきたい。

第1回 2020年8月8日 13:30~15:30 参加者：76名（うちオンライン参加36名）

大津市ふれあいプラザホール

「環境保全活動で気をつけたいポイント」

講師：西野麻知子さん

第2回 2020年9月6日 13:30~15:30 参加者：63名（うちオンライン参加43名）

草津市立まちづくりセンター301・302

「効果的な活動のための団体運営のヒント」

講師：内田香奈さん きょうとNPOセンター

## iii ファーストステップ団体ヒアリング

ファーストステップ助成では、次年度または次々年度に一般助成へ応募することとなっている。4月からの活動状況を確認しながら、次年度どのように対応していくかについて個別に相談するヒアリングを、1年目団体と2年目団体に分けて、全団体対象に実施した。コロナの影響を受けて、活動内容の変更や予算執行についての相談が多かった。

1年目団体：2020年11月7日（土）10:30~16:30

草津市市民交流プラザ 和室・小会議室6

2年目団体：2020年11月14日（土）10:30~16:30

大津市市民活動センター 大会議室

## iv ステップアップ講座

一般助成は3年までの継続となっているが、組織基盤強化に取り組む団体に対してステップアップ助成の枠組みがある。ステップアップ助成では環境保全活動と組織基盤強化を同時に取り組むことになるが、この組織基盤強化策をどのように構築するか、それを応募書類にどのように書きこむかなどについて説明し事業企画の相談に応じるステップアップ講座を開催した。対象となる一般助成3年目団体に意向を確認して実施した。

2020年11月8日（日）13:30~16:00

草津市立まちづくりセンター309 参加：8団体

v 活動訪問

一般助成1年目団体の活動現場を訪問し、取材を行った。訪問した内容を写真と文章でホームページサイトに掲載して情報発信した。この訪問を通じて団体との関係性が構築できるとともに、活動内容だけではなく情報も収集できることで、以降の相談対応等に活かすことができている。

vi 運営で工夫をしている団体への取材

夏原グラントの助成を受けて活動していた事業が、その後どのように展開されているか、また団体の組織運営はどのようになっているかなどについてヒアリングを行った。コロナの影響で、現地を訪れてのヒアリングができなかったが、今後、問い合わせなどを含め、記事としてまとめてホームページに掲載することとしている。

vii 活動報告書

団体の活動内容を取りまとめた報告書として、A4サイズで1000部作成。1事業あたりA4サイズの1/3スペースで、一般助成採択団体のすべての事業を掲載している。広報ツールとして応募を検討している団体などへの情報提供用として積極的に配布した。

x 説明会・事前相談会

夏原グラントへの応募を考えている団体を対象に、募集要項作成後に説明会を実施した。説明会終了後には事前相談会を設定し、応募についての質問や相談に応じた。ファーストステップの団体には、積極的に参加を呼びかけた。コロナ拡大防止対策として、オンラインでも対応した。

・草津会場	2020年11月26日	参加：6団体	うちオンライン参加3団体
・京都会場	2020年12月1日	参加：9団体	
・南丹会場	2020年12月5日	参加：6団体	うちオンライン参加1団体
・近江八幡会場	2020年12月6日	参加：8団体	うちオンライン参加2団体
・大津会場	2020年12月19日	参加：4団体	

xi 2021年度助成にかかる準備

2021年度活動の対象となる助成事業の応募から選考にかかる一連の業務について、2020年度内に準備を進めた。xの説明会・事前相談会も、その一環である。

具体的には要項作成、説明会・事前相談会、応募受付、団体ヒアリング、選考会・公開プレゼンテーションなどである。

選考会・公開プレゼンテーションの日程は次の通り。

一般助成1年目

1次選考（書類選考）：2021年2月22日（月）18:00～20:00

2次選考（プレゼンテーション・選考会）：2021年3月14日（日）9:30～16:30

一般助成2年目

プレゼンテーション・選考会：2021年3月6日（土）9:30～17:00

団体ヒアリング日程は次の通り。

一般助成3年目団体対象：2021年2月19日（金）13:30～16:00

2021年2月20日（土）10:00～16:30

②生活協同組合コープしが できるコトづくり制度（受託事業）

一人ひとりが持つ「想い」や「願い」が結びつき、誰もが安心して暮らし続けることができる地域社会を実現していくための支援として創設された「できるコトづくり制度」の運営事務局を引き続き担った。

2020年度助成金活動団体を定める審査会は、本来であれば2019年度中に実施すべきものであるが、コロナ拡大により、開催日と開催方法を大幅に変更して2020年4月に実施した。このため、審査会後のスケジュールはタイトなものとなり、急遽に対応しなくてはならないことが多かった。また、講座についても感染拡大防止のために開催方法などを工夫したものの、大々的な広報が難しいことなどから、多くの方に参加してもらうことができなかった。次年度以降は、講座の開催方法や内容等の検討が必要である。審査会・講座はオンラインと会場の併用型で実施したが、機器類の設置方法や電波環境が安定しないなどの条件が整わないこともあり、参加者に不便をかけてしまうこともあった。今回の経験を活かして、今後は安定した運営を目指していく。

活動訪問とレポート作成・専用ホームページサイトへの公開、ホームページサイトの運営などについては引き続き実施し、2021年度に向けた助成金の募集・審査会運営、説明会、団体からの相談対応などを行った。

i 2020年度採択団体

- ・活動助成 1年目 3団体  
2年目 2団体  
助成金総額 1,370,000円
- ・はじめて助成 1年目 5団体  
2年目 4団体 助成金総額 887,000円
- 計 14団体 2,257,000円

活動助成は事前審査とプレゼンテーションで審査を行う予定であったが、プレゼンテーションは中止となり、はじめて助成とともに書類選考により採択団体を決定した。

2020年度の助成金対象団体数と助成総額は以下のとおりである。

<活動助成>

1年目

団体名	事業名	助成額
カズン	地域のつながりで食品ロスを減らす	270,000
やす地域共生社会推進協会	買い物難民・サービス難民を救う！「おたのみやす」の発行	300,000
ぼてじゃこトラスト	滋賀の魚つかみ文化を次世代につなぐ、楽しく遊び、学ぶ親子自然体験教室	200,000

2年目

団体名	事業名	助成額
NORA	NORA（ノーラ）	300,000
山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会	山門水源の森保全活動環境改善事業	300,000

<はじめて助成>

1年目

団体名	事業名	助成額
ほっとサロンひなた	わくわくいっぱい！難病患者と家族の会ほっとサロンひなた	87,000
みんなのもうひとつのおうち「キュルア」	みんなのもうひとつのおうち「キュルア」	100,000
楽楽ひろば	世代を超えたつながりを通して、成長と元気をつくる楽楽ひろば	100,000
西の湖あそび隊	冊子『あづちのふるさとばなし』第2巻再話編集とウェブサイトの開設	100,000
くさつ Farmer's Market 実行委員会	くさつ Farmer's Market で作る未来プロジェクト	100,000

2年目

団体名	事業名	助成額
おてんとさん・八日市おかえり食堂	八日市おかえり食堂（子ども食堂）	100,000
放課後スペースほっこりや	放課後スペースほっこりや	100,000
菌（くさびら）LABO	菌を通じたツナガリづくりで、文化の継承や生活文化の質を高める会	100,000
Mom's fun	図書館と本でつながる子育て支援事業	100,000

ii 講座

「こんな活動があれば暮らしやすいのに」「困っている人をみんなで支えたい」「自分や仲間の力を地域で活かしたい」など活動への関心を寄せている方々を対象に、社会の現状と課題や活動への取り組み方法などについて考える場として開催した。2020年度はコロナのこともあり、会場参加とオンライン参加の併用型で開催した。

第1回：2020年9月22日（祝・火） 滋賀県立男女共同参画センター オンライン2名参加  
2020年9月27日（土） コープしが野洲本部 オンライン1名参加

「今、私たちの周りで何が起きている？ ～身近な問題に目を向けてみよう～」

第2回：2020年9月28日（月） コープしが野洲本部 オンライン参加4名  
2020年10月4日（日） 滋賀県立男女共同参画センター 会場1名参加

「滋賀でこんな取り組みが！ ～先輩たちの活動を学ぼう～」

第3回：2020年10月8日（土） 滋賀県立男女共同参画センター オンライン2名参加  
2020年10月18日（日） コープしが野洲本部 会場1名・オンライン1名参加

「『やってみたい』から『やれる』へ！」

それぞれの回でのアンケートでは「自分の生活や周辺だけでなく、地域や県、日本、世界で起きていることに目を向けて知ることは大切だと改めて思った」「事例を通して、活動のイメージが湧いた」「仲間と一緒に楽しんでアイデアを出し合っていくことが大切」「具体的なことはもっと煮詰める必要があると思った」などの感想が寄せられた。

### iii 活動訪問

採択された団体を訪問し、活動について取材を行った。それをまとめ、専用ホームページサイトに掲載した。

### iv 説明会・相談会

応募を考えている団体を対象に、募集要項作成後に説明会を実施した。説明会終了後の相談会では応募にかかる質問や相談に応じた。会場での開催と、日時を指定してその中から自由に選べるオンラインによる相談を行った。オンライン参加者の満足度は高く、今後の相談会・説明会の実施方法についてヒントが得られた。

#### 会場開催

第1回：2020年11月18日（水）婦人会館 参加1団体数

第2回：2020年11月21日（土）コープしが本部 参加1団体数

#### オンライン開催

第1回：2020年12月3日（水）参加2団体

第2回：2020年12月12日（土）参加2団体

#### 個別相談対応

団体名・個人名がわかる相談 7件

### v 専用ホームページサイトの運営

制度の創設にあわせ、できるコトづくり制度専用ホームページサイトを立ち上げたが、2019年度に引き続き講座や助成金情報を掲載して広報を行った。

### vi 2021年度助成にかかる準備

2021年度活動の対象となる応募から審査について、2020年度内に準備を進めた。ivの説明会・相談会も、その一環である。

具体的には要項作成、説明会・相談会、応募受付、プレゼンテーション・審査会などである。

審査会は2021年2月28日（日）に開催した。遠方から参加予定だった審査委員についてはオンライン参加として、会場でのプレゼンテーションと審査会となった。会場とオンラインの併用型について、前回の審査会や講座での経験が活き、先進的に取り組んでいる方にテクニカルスタッフとして協力してもらえことでスムーズな運営ができた。

## ③大和リース まちづくりスポット

大和リース（株）が商業施設を建設・運営する「ランチ大津京」内に全国で展開している「まちづくりスポット」が併設されることとなり、2019年11月末にオープン、2020年度はしがNPOセンターが運営を担った。2020年10月に新法人「まちづくりスポット大津」が立ち上がったが、2021年3月まではしがNPOセンターが運営を継続した。

事業の柱としていたまちづくり支援のための講座や市民活動・NPO・起業等の担い手育成、相談事業等については随時計画を見直しながら実施し、新たな事業として立ち上げ支援に関わる助成事業にも取り組んだ。地域団体やランチ大津京内の入居テナント等と連携して行う企画を実施することで、商業施設内にある中間支援組織の強みをいかした取り組みを行うことができた。

- i 市民活動・NPO・コミュニティ・起業等まちづくり支援のための講座やイベントの開催に関わる事業
- ア 地域の人が気軽に参加できる講座やイベントの開催（：参加者数など）

まちづくりスポット大津の認知を広め、利用者の動向把握と活動サポートを目的にした講座やイベントを実施した。

定期開催企画：木組みの積み木に触れるイベント「クミノで遊ぼう！」：87名

本を通じた常設企画の実施「まちスポ玉手箱」：のべ74名

来館者をふやすためコミュニケーションができるような事業を工夫し、集客につながった。

防災イベント：「絵と写真で感じる『たいせつなもの展』&トークイベント」：47名

南草津マンション防災委員会代表の江藤沙織さんの「自助コミュニティ」の講話やシンポジウム・写真展で防災について考える機会を提供した。

1周年記念事業：記念講演会「市民活動はじめの一步 わたしの“参加”でつくるまちづくり」：23名

子どもを対象にしたワークショップ：140名

記念講演会では、講師の早瀬昇さんから市民が楽しくボランティアや市民活動に参画する秘訣や元気に団体運営をしていくためのヒントについて話を伺った。あらためて中間支援組織であるまちスポ大津ができることをメッセージとして広報したところ、NPO・市民活動団体のスタッフや中間支援組織のスタッフ、行政職員や学生等の参加があった。子どもを対象とした企画はさまざまな団体の協力により行った。ネイチャーゲーム、いくつかの知育ゲーム、チョークでの自由なお絵かきなど、1日中賑わった。

コラボイベント：「あつまれ！ランチキッズ探検隊」：63名

ランチ大津京に入っている店舗に依頼し、「その店舗ならではの子ども目線での体験」をする機会を子ども達に提供した。各店舗独自の魅力あるプログラムをコーディネートすることができた。

#### イ 社会課題、地域課題解決のために必要な講座やイベントの開催

「まずやってみる！イベント主催きほんのき講座」：7名

何かしたいと思っても、「初めの一步の踏み出し方がわからない」という声を受け、イベント主催のノウハウを提供する講座を実施した。

#### ii 市民活動・NPO・コミュニティ・企業等まちづくりの担い手を育成する人育ちに関わる事業

市民活動や地域コミュニティの持続性を高めるため、まちづくりを担う人材育成に取り組んだ。コロナ禍の中、一部の講座は参加定員を大幅に引き下げての開催となった。

#### ア 活動のを見つけ方や活動のはじめの一步に関わる講座

「実践者に聞く！“場”づくりのイロハ」

「問題意識を行動につなげる～比良里山物語、そしてこの先へ～」

講師：三浦美香さん（一般社団法人 比良里山クラブ代表理事）：9名

活動内容は変化しつつも、地域に拠点を置き、地域と一緒に考え、共に成果をあげ、わかりやすく伝えていこうとされているところに、活動のぶれない軸を感じる講話内容であった。

「私の困ったはママ（みんな）の困った！～声を拾う多様な事業展開～」：6名

講師：押栗泰代さん（認定NPO法人 マイママ・セラピー理事長/ナーシングクリエイト（株）代表取締役）

思いを「カタチ」にしながら事業展開するため大切なこと、0から1を創るための歩みとこれからの担い手育成についてなど、団体にとっては参考になる話だった。

「居場所づくり活動のこれから～子供の居場所づくり、こうやって歩いてきて、こうやって歩いていく～」講師：幸重忠孝さん（NPO法人 こどもソーシャルワークセンター理事長）：8名

居場所づくり活動でのボランティアとの関わり、地域や関係者（応援団）の巻き込み方で実践してきたことなど、さまざまなエピソードを交えての話があった。

イ 団体や活動に関わる人へのスキルアップ講座

「グーグルアナリティクスを活用したアクセス解析から次の事業を考える」：9名

講師：中園陽二さん（株式会社晴々屋）

グーグルアナリティクスの基礎を学んだ後、応用編としてデータ分析のポイントやその他に使えるツールの紹介を聞いた。

ウ 「A3一枚で事業内容が伝わる！ビジネスモデルキャンバス作成講座」：16名

講師：中村誠さん（公財 滋賀県産業支援プラザ創業支援課）

滋賀県産業支援プラザとの連携の企画で、ビジネスや活動を始める際に有効なフレームワークであるビジネスモデルキャンバスの説明を聞いて、実際に作成した。

iii 立ち上げ支援に関わる助成金事業

まちづくりスポット大津のシェアスペースやランチ大津京を利用しながら、「地域で暮らす人の心地よい居場所をつくる活動」、「多様な人の共感・参加を促す活動」を行う団体・個人を応援することを目的に、「“彩りはぐくむ“まちづくりスポット大津助成金事業”を実施した。選考の上、6団体に助成を行った。年度内に活動を始めることとし、活動への支援を行った。

vi 市民活動・NPO・コミュニティの運営や起業等に関わる相談、コンサルティング

市民活動や起業に関わる相談を行った。相談件数は106件。相談後、個人の思いを「カタチ」にするため、次の一歩につながるアドバイスや連携機関へのコーディネートを行った団体もあった。

v さまざまな団体や個人が交流でき、ネットワーキングを広げるための事業

まちづくりスポット大津へ足を運び、楽しい時間を過ごしてもらうことを目的として、地域の団体と連携し交流や遊びの場を提供した。

「まちスポキッズワークショップ」：73名

連携団体：れもん会社（社会福祉法人湘南学園障害福祉サービス事業所）

日本けん玉協会滋賀支部

エコクラフトづくりワークショップ、けん玉体験・検定、子ども達のけん玉パフォーマンスを行った。近くの小学校にも広報し、子ども達がたくさん参加した。

「これってどうなん？ワーキングマザー月夜のお話会」：5名

連携：BRANCH ING（大和リース事業）

ランチ大津京の夜を盛り上げるためのイベントとして開催した。ランチ内のレストランでテイクアウトしたものを持参し、さまざまな子育て情報を交流した。

「まちスポフードドライブ」：18名、112点

共催団体：大津市社会福祉協議会

家庭で余っている食品をまちスポに持参、寄付いただき、集まった食品を大津市社協より、食品を必要とする一人親世帯に届けてもらった。「まちスポキッズワークショップ」時に開催した。

「ママパスポートのつくり方」：10名

共催団体：一般社団法人ママパスポートコミュニティ

子育て状況の共有をするとともにママパスポートを作成したい人を発掘をするもので、滋賀県の子育て関連拠点の関係者をゲストスピーカーに取り組みを聞いた。



vi 市民活動・NPO・コミュニティ・起業等に関わる情報収集、発信事業

ア ホームページサイトなどでの情報発信

イベントや日常の取り組みなどの発信に積極的にとりくんだ。情報発信については、SNS (Facebook、Twitter、Instagram、LINE など) でも積極的に行った。

イ ニュースレターの発行

ニュースレターいろどり+ (プラス) vol.1 を発行し、会員や大津市内のNPO、中間支援組織等に送付した。

vii まちづくりの拠点であるハッシュタグ大津京の運営

ア ハッシュタグ大津京 シェアスペース・シェアオフィスの利用促進

ハッシュタグ大津京・シェアスペースは、ホームページサイトからの利用申し込みとなっている。スタート時に比べて利用が増えてきていたが、年度当初はコロナによってキャンセルが多かった。10月から朝と夜間、日曜日に無人管理での利用が始まり、休日の利用が増加した。利用会員登録数は90、利用回数は175件、イベントなども含めた来館者は6066人。

シェアオフィスは10ブースあり、うち8ブースの契約があった。上半期は契約件数が伸びず、見学会や体験weekなど、様々な方法で広報・利用促進に向けて取り組んだ結果、契約につながったケースもあった。

イ 近江神宮外苑公園グラウンドの利用受付

大和リースが近江神宮外苑公園グラウンドの指定管理者となっていることから、管理業務のうち利用受付をまちづくりスポット大津が担っている。当初はネットでの利用受付時の煩雑さがあったものの、徐々に利用が増えてきている。グラウンドの利用回数は114回。

viii その他

ア NPO法人まちづくりスポット大津の立ち上げ支援

NPO法人まちづくりスポット大津の立ち上げ支援アドバイスを行った。法人の会員制度を設け、事業や講座、相談等に関わりのある方に入会を呼びかけた。2020年度正会員：個人27人、団体1団体、賛助会員：個人12人。

イ 会議など

まちスポ会議、大和リースとの定例会を月に1回行い、情報を共有した。

### (1) コラム発信

2013年6月より、NPOを取り巻く環境や課題、また時々の社会的な問題などについて、HPサイトでコラムとして発信した。2020年度は1か月に1回、計12回リリースした。

2020年4月 新型コロナウイルスのNPOへの影響

5月 NPOとしての新型コロナウイルス対応

6月 緊急事態宣言は解除されたけど

7月 持続化給付金から見える政策の動かし方

8月 立ち止まって考えないと

9月 安倍政権に対する冷静な評価を

10月 人口動態を見て感じること

11月 学問の危機

12月 温室効果ガス排出実質ゼロは達成されるのか

2021年1月 新しい社会像を提示できるか

2月 最後のセーフティネットは生活保護？

3月 リコール署名

### (2) 協働環境調査

「第6回都道府県・主要市におけるNPOとの協働環境に関する調査」

これは、自治体におけるNPO等との協働環境の整備状況や、市民・NPOの参画度、関連情報の公開度を明らかにする全国的な調査であり第6回目になる。今回は全国NPO事務支援カンファレンスと岡山NPOセンターが事務局となり実施している。本年度は、従来の協働の状況調査に加えて、新型コロナウイルスの影響への対応やSDGsの達成における協働、災害支援における協働の項目が加わった。

全国37の中間支援組織が各県・市のホームページサイトを依りどころに必要項目の事前調査を行った（中間支援組織のないところは岡山NPOセンターが調査）。調査結果は、2021年度に調査報告書としてまとめられデータ発行される予定である。またウェブサイトでも概要を掲載、そのほか各地で開催する報告会・セミナー等で公表される。

しがNPOセンターは、滋賀県、大津市、草津市を調査対象とした。事前調査後、調査内容の確認で自治体とのやりとりを行ったが、年度末でもあり一部やりとりができなかった自治体もあった。5年前は協働提案制度が滋賀県内でも展開され全国的には評価も高かった。しがNPOセンターでも審査員などで関わっていた時期でもある。現在はこの3つの自治体とも協働提案を常設の施策として年間を通してマッチングしている。財源も各課で確保するというスタイルになっているため、各課の協働事業への意欲と庁内全体の協働事業への対応が試されている。その結果、今回の協働提案制度の取り組みについては、結果的に3自治体とも評価が下がってしまった。3自治体共に協働推進計画などの施策は装備しているので、新たに協働事業の全庁的な体制や協働事業の把握や評価がしっかりされているかなどの課題がみつかった。

## 5 災害ボランティアコーディネート事業

### (1) 「災害支援市民ネットワークしが」の運営

#### ① 「災害支援市民ネットワークしが」

県内外での災害時に、災害ボランティアセンター運営支援やコーディネート、独自の情報発信などができることを目指し、2013年度にネットワークを構築し、しがNPOセンターが事務局を担っている。平常時には学習や交流の機会を設けて、スキルアップと加入団体・個人との連携を維持し、新たな連携先の掘り起しを図るとともに、各地で起こる被災地への支援活動も行っている。

会員組織としてはいるが会費は設定せず、オブザーバーなどの参加もある。研究会・セミナー等へは会員外にも声をかけるオープンな形態としている。

過去数年は、災害ボランティアコーディネーター養成講座の修了者のうち希望者が加入することにより個人会員が増加してきたが、団体への広がりがないため団体会員への呼びかけが必要である。現在会員は、団体会員：15団体、個人会員：57人となっている。

総会日時 2020年6月27日(水) 13:30~14:00

開催場所 草津市立まちづくりセンター309会議室 参加者：28名

総会終了後には、続けて第1回研究会を開催した。

#### ②研究会

「災害支援市民ネットワークしが」は、滋賀における市民の災害対応力を高め、その能力を活かすため、行政や社会福祉協議会等と連携しながら、災害発生時のボランティア派遣、ボランティアセンター運営支援、ボランティアコーディネート等の災害支援活動、平時における防災活動の啓発などを行うネットワークである。本企画では、平時におけるメンバーの対応能力を高めるため、コロナ感染症のことも含めたテーマの研究会を開催した。それぞれのテーマに対しての関心は高く、特にコロナ禍での対応の回は参加者の満足度も高かった。今まであまりつながりのない層へどのように参加を呼びかけるかなどの働きかけが難しかったが、初めて参加された方などとのネットワークなどの構築も考えていく必要がある。中間支援組織の参加が少ないので、改めてのアプローチが必要である。

i 第1回：2020年6月27日(土) 14:15~16:30 参加者19名

「長野での連携協力から学ぶ」

講師：石井布紀子さん(NPO法人さくらネット 代表理事)

農業・商業支援と生活支援の間には垣根がなく、「農業支援」とするとボランティアはそこには手がつけられない領域である。その隙間を埋めるためのネットワークづくりは、県、市、JA、ボラセン、事業所など、それぞれの主体が少しずつ自団体の変革をしないと行けない。縦割りを越えてスピーディーに進めるためには、少しの努力とコーディネーターの力が必要。多様な協働プロジェクトでやっていくためには、例えばコロナ対策など「避難所」だけを縦割りで切り取って考えるのではなく、地域や生活でのもっと多様な課題をその視野にいれなければならない。

ii 第2回：2020年8月24日(月) 13:30~16:00 参加者26名

「福祉避難所の運営を考える～コロナ禍の現状を踏まえて～」

講師：後藤至功さん(佛教大学福祉教育開発センター講師)

要支援者にあった避難所をマッチングする時に大事なものはスクリーニングである。福祉施設では、財源が介護サービス対象のものと、災害救助費から確保されるものがあり、福祉避難所は後者となる。福祉避難所を受けて進めるためには人材が必要で、最近ではDMAT（医療チーム）やDWAT DCAT（福祉チーム）などの支援チームができています。福祉避難所でのコロナ対策では、防護服はいつの場合でも重要なので普段から集めておくことが大切だ。

iii 第3回：2020年10月30日（金）13：30～16：00 参加者32名

「コロナ感染症を踏まえたHUG体験」

講師：湯井恵美子さん（福祉防災コミュニティ協会上級コーチ）

災害時には、まず目の前に迫ってくる危険に対応することが必要だが、実際は感染が嫌で避難しなかった人も多かった。とにかく命を守ることが優先。災害時においてコロナは後回しになることもあるが、準備や対策をすれば感染は防げる。受付でのマスク配布、体温計測や消毒の迅速化は必須。また適切なゾーン配置や動線も工夫する。空気清浄機、加湿器、クーラーの設置が必要。また大広間にはコミュニティスペースを確保し、情報収集やストレス発散の場とするなどが必要である。

iv 第4回：2020年12月10日（木）13：30～16：00 参加者22名

「コロナ対策から災害支援を考える」

講師：石井布紀子さん（NPO法人さくらネット 代表理事）

多くの方が「コロナを持ち込まれるのが怖い」とボランティアを断り、復旧が遅れたという例がある。避難所における感染対策の注意事項はすでに行政などから出されているが、それ以外の問題も含めて協働で「避難所対応マニュアル」づくりができないか。ボランティアが活動することによる感染拡大の不安で地域の方が躊躇する影響を考慮し、個別ニーズ把握から調整を行う個別マッチングと、地域関係者と共に小地域ごとにニーズ把握・調整を行う「コミュニティマッチング」を並行することで、一人も取り残さない支援ができる。

v 第5回：2021年1月18日（月）13：30～16：00 参加者32名

「コロナ感染症を踏まえた避難所運営ゲーム」（2回目）

講師：湯井恵美子さん（福祉防災コミュニティ協会上級コーチ）

10月30日の第3回研究会が定員オーバーとなったため、同じ内容を少し大きめの会場で行った。避難所となる小学校の白地図を広げて、コロナ対応の運営体験（HUG）に取り組んだ。避難所で次々に起こることに時間軸で迅速に対応しながら、避難所全体の調整を行う。最初は受付や避難者の配置、次に車での避難者対応や食事の準備、避難所のルールの徹底や、夜間の対応も必要で、備蓄物や備品に何があるかも頭にしておくことも大事だ。外国人や子どもや女性への細やかなニーズ対応にも気を配る。災害発生時には瞬時にこんなにとくさんのことはできないので、あらかじめ準備をしておくことの必要性が実感としてわかった。

## (2) 近畿ろうきんNPOパートナーシップ制度

### ① 災害支援市民ネットワークしが研究会（再掲）

5-(1)-②の研究会のうち、i-第1回研究会、ii-第2回研究会、iii-第3回研究会、iv-第4回研究会を、近畿ろうきんパートナーシップ制度の枠組みで実施した。

## 近畿ろうきん NPO パートナーシップ制度

近畿ろうきんが2000年度から始めた近畿2府4県内でのNPO・ボランティア活動を促すための制度。

2011年度からは東北地方を中心とした被災地での復興支援活動に力を入れていたものの、年月が経過する中現地支援からは軸足が遠のいていた。しかしながら2016年4月に発生した熊本地震を機に、現地支援の必要性から再度復興支援活動に取り組むこととなった。2018年度からはSDGsに関わり「誰もおいてきぼりにせえへん」をテーマに掲げて事業を進めている。

### ②共通企画

近畿2府4県のNPO支援センターと近畿ろうきんが共同で事業に取り組むもの。2020年度は市民活動団体にとってもコロナ禍の影響が大きく、活動の中止や内容の変更、また実施については様々な準備が必要となるなど、人手や資金の面からも厳しい状況にあることが見えてきていた。そういった団体と連携しながら活動している中間支援組織も、今までの知識や経験だけでは対応できないこともあり、新たな局面に立ち向かった1年間でもあった。その中間支援組織や市民活動団体の取組を共有し、これからの展開について考える場としてシンポジウムを開催した。開催はオンラインで行った。

シンポジウム「コロナ禍の社会における市民活動を考える」(オンライン)

2021年2月21日(日) 14:00~16:00 (Zoom 配信)

#### i 基調講演

「コロナ禍の社会における市民活動を考える-『新しい生活様式』への対応を踏まえて」

西川 一弘さん(和歌山大学 学長補佐/紀伊半島価値共創基幹准教授)

#### ii パネルディスカッション

《活動報告》

コロナ禍での災害支援ネットワークの取組み しがNPOセンター

コロナ禍での特別定額給付金を活用した寄付の呼びかけ きょうとNPOセンター

コロナ禍での居場所づくりへの支援活動 コミュニティ・サポートセンター神戸

## (3) 滋賀県災害ボランティアセンター運営協議会

### ①運営協議会会議

第1回 日時:2020年9月2日(水) 15:00~16:30

方法:ZOOM 開催

第2回 日時:2020年11月5日(木) 14:00~15:00

方法:ZOOM 開催

### ②災害ボランティアセンター機動運営訓練

日時:2020年9月20日(日) 7:00~10:00

場所:滋賀県危機管理センター、ZOOM 併用

滋賀県総合防災訓練にあわせて実施

## (4) 災害ボランティアコーディネーター基本研修

パネリストとして参加

日時:2021年1月29日(金) 9:30~16:30

場所:滋賀県危機管理センター

**(5) 災害時要配慮者支援ネットワーク会議**

日時：2021年2月8日（月）14:00～16:30

場所：滋賀県危機防災管理センター

西日本豪雨水害で支援に入った三原市社会福祉協議会の柳原綾さんから事例報告があり、現在の復興状況の話も聞くことができた。

**(6) 官民の被災者支援主体間の連携推進のための中核人材育成研修会**

内閣府主催の研修で5回にわたってZOOMで開催。各府県参加者は一堂に会して受講する。

滋賀からは、滋賀県防災危機管理局、滋賀県健康福祉政策課、滋賀県社会福祉協議会、長浜市社会福祉協議会、災害支援市民ネットワークしがが滋賀県危機管理センターに集まって、参加した。

第1回 2020年11月6日（金）13:00～17:30

第2回 2020年11月30日（月）13:00～17:30

第3回 2021年1月20日（水）13:00～17:30

第4回 2021年2月15日（水）13:00～17:30

## 6 ネットワークの構築

### (1) 近畿ろうきん NPO パートナーシップ制度

「近畿圏 NPO 支援センター連絡会議」に出席

2020年7月1日、10月15日、12月1日、2021年3月18日

いずれもオンライン開催 (Zoom)

### (2) 中間支援センター意見交換会への参加

県内の中間支援団体で組織する意見交換会に参加した。

①2020年9月4日 会場：長浜まちづくりセンター

テーマ：1. 各センター等への相談についての集計表紹介

2. 各市民団体の新型コロナウイルス感染症の影響について

その他

参加：阿部

②2020年12月15日 会場：甲賀市まちづくり活動センター「まる一む」

テーマ：1. 「一般法人」について知ろう～その制度とガバナンス・責任ある運営のために～からの報告 (まちづくりネット東近江 遠藤さん)

2. NPO 相談設立時に伝えておいてほしいこと (滋賀県県民活動生活課)

各センターの情報交換

参加：幡

③2021年3月3日

テーマ：NPO 法人ふうめらん (三重県関市) の Zoom 視察

代表の北村さんによる団体と事業の紹介、質疑応答

参加：幡

## 7 会議等の開催

### (1) 総会

2020年5月23日（土）13：30～14：30 ハッシュタグ大津京・オンライン（Zoom）併用

2020年度は、コロナ拡大防止の観点から、会場参加とオンライン参加、書面評決の選択肢を準備した。オンライン参加では今まで遠方で参加しにくかった方の参加があり、オンラインならではの総会となった。進行を工夫する必要があるが、オンライン参加の併用に成果が見られた。

### (2) 理事会

第38回 2020年5月12日（火）

第39回 2020年9月3日（木）

第40回 2021年1月9日（土）

第41回 2021年3月19日（金）

2020年度はコロナ拡大防止の観点から、理事会も会場参加とオンライン参加の併用型で開催した。時間と場所の自由度が高いことから、出席理事も多かった。今後も状況を見ながら併用型での開催も考えていきたい。